
27 ウィルス

古縁空白

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

27 ウイルス

【Nコード】

N4692V

【作者名】

古緑空白

【あらすじ】

何も始まらない。何も終わらない。 零なお話。

27 ウィルス

「感染者を発見しました」

私は彼を見る。なんというかお粗末な格好ね、私はそう思い笑ってしまふ。そうすると遠吠えのような獣の声が聞こえた。でも他人行儀もそこまで、その遠吠えは私のものだからだ。

私は、私を知らなかった。彼の言う「感染者」。彼の声音は酷く嫌悪を含んでいるものだった。

ああ、きつと彼は私を殺すだろう。

ああ、きつと私は彼を殺すだろう。

ならば、獣の私。

「徹頭徹尾、殺し抜いてあげましょう」

銃声は嫌いじゃない。

命を預けているものを好きになるのは、多分古来からの習わしだろう。そして、多分好きになれなかった奴は死んでいくのだと思う。そう言うやつは同僚に多くいた。

そして、今また死んだ。

獣。

B・ウィルスとよばれるものの仕業。人間を、いや人間だけに限った話ではなく化け物を作り出すウィルスなのだ。

感染力は強くはない。粘液接触で絡む以外にはウィルスは感染しない。

「感染者を発見しました」

路地裏。相棒は死んでいる。殺された。獣に。

銃を構える。化け物、とは言うが身体能力が飛躍的に上がっているほかはそこまで硬い皮膚になることは人間の素体では例を見てい

ないらしい。

照星越しに視線が交わる。

笑み？

確かに笑った。

そして、次の言葉を聞く。

「徹頭徹尾、殺し抜いてあげましょう」

左肩が消し飛んだ。

そして彼女は着属を増やした。二人。それでももさびしいと、獲物を求め街へと繰り出す。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4692v/>

27 ウィルス

2011年10月9日03時49分発行